

〔課題演習報告〕

中学校期を見据えた小・小連携教育
～教務主任会のコーディネートを通して～

Study of Cooperation with Elementary Schools Focus on Junior High School First Year
-Coordination for Curriculum Manager Meeting-

神 崎 育 子
Ikuko KOZAKI

福岡教育大学大学院教育学研究科教職実践専攻学校運営リーダーコース
添田町立落合小学校

(2015年1月6日受理)

本町の小中学校は、学校課題や学校環境が異なる5つの小学校が1つの中学校へ進学する状況にあり、小学校、中学校の連携教育はもちろん、5つの小学校間の連携教育も求められている。本研究は、本町が抱える学力や生徒指導上の教育課題の改善を目指し、中学校期の教育効果を高めるための小学校間の連携教育を推進することを目的にした。そこで、教務主任会に小学校間の連携教育について協議する場（小・小連携会議）を設定し、連携の内容や方法について、「共通理解」「取組の徹底」「取組の意欲化」の3つの観点からコーディネートを行った。その結果、連携教育を進める組織・協議する場や時間が教務主任会に位置づくなど体制が整い、連携教育についての重要性を認識し、推進していこうとする教務主任の意識が高まってきた。

キーワード：小・小連携教育，共通理解，取組の徹底，取組の意欲化

1 主題設定の理由

(1)現代の義務教育の課題から

中央教育審議会（小中連携・一貫教育に関する主な意見の整理）において、義務教育の課題について、「小学校から中学校への進学において、新しい環境での学習や生活にうまく適応できず、不登校や問題行動につながっていく事態」「授業の理解度・学校の楽しさなど、中学生になると肯定的回答をする割合の低下」などがあげられている。これらの原因として、義務教育での小・中学校種間の連携・接続の在り方に大きな課題があると指摘している。このことから、義務教育9年間における、よりよい学びの実現や生徒指導上の様々な課題の解決のために、学校間の連携協力体制を築くことが重要であると考えた。

(2)添田町の学校の状況から

本町は、平成22年に学校の統廃合が行われ5小学校（ABCDE小）と1中学校（F中）の体制になった。このことを踏まえ、平成23年度から本町では、小中連携の取組の一つとして、学び方を含めた「添田町生活のきまり」を作成し、全小中学校で指導を進めてきた。しかし、図1で分かる通り、5つの小学校は、学校の規模の差が大きく学校間の距離も離れているため、これまで行ってきた取組は、それぞれの学校の取組に留まりがちであった。

学校名	A	B	C	D	E
児童数(人)	319	51	55	32	15

表1 添田町の各小学校の児童数 H26.4月現在

その結果、各小学校で、取組の徹底度に差が生まれ、中学校入学段階で、環境の変化に対応できない生徒がみられるなど、小学校段階での積み上げがうまく中学校へ引き継がれない面がみられた。そのため、中学校では、学習面、生活面など、基本的な指導を入学してから新たに行わなくてはならない状況があった。

これらの課題を解決し、中学校期の教育効果を高め、中学校期のあるべき姿を実現させていくためには、まずは町内全教職員が、小中学校9年間の学びを一体のものにとらえること、その上で、学校課題や学校環境が違う5小学校の連携を充実させ、中学校入学までに学習の仕方や生活の約束を統一し、5小学校が一体となった一貫性のある指導を行っていくことが必要であると考え、本主題を設定した。

(3)一年次の研究から

一年次の研究では、添田町の教育課題の改善を目的として、5小学校が連携し、協働実践を行うため、教務主任会のコーディネートを行った。具体的には、「添田町生活のきまり」を共通に取り組み内容とし、「共通理解を図るコーディネート」「取組の徹底を図るコーディネート」「取組の推進を図るコーディネート」の3点から教務主任会へのコーディネートを行った。その結果、明らかになった成果と課題は、下記の通りである。

〈成果〉

- 教育委員会や各学校の管理職・教務主任と直接対話をしたり、具体的なデータや資料を提示したりするなど「共通理解を図るコーディネート」を行うことで、関係者の取組の趣旨の理解が深まるとともに協働体制づくりが進み、教務主任の協働実践の意識の高揚も図ることができた。
- 取組内容の重点化及び定期的な評価の実施、教務主任による連携校の訪問など「取組の徹底を図るコーディネート」を行うことで、取組が焦点化されるとともに、各教務主任の自校での目標をもった取組に繋ぐことができた。連携校訪問では教務主任が、他校の子どもの姿や学校体制を目の当たりにすることにより、自校の取組の見直しに向けて、大きな刺激を受けた。
- 効果的な資料の提示、教務主任の実践後の感想の提示、小・小連携会議への中学校の教務主任の参加促進など「取組の推進を図るコーディネート」を行うことで、教務主任会を効率的に運営でき、連携教育に対する意識を高めることができた。

〈課題〉

一年次は、連携の内容として、「添田町生活のきまり」の中から重点的に取り組む内容を決め実践してきたが、二年次は、連携の内容をさらに広げ、小・小連携教育の充実を図る必要がある。また、各教務主任が、自校で取組の推進・管理をさらに主体的に行うためのコーディネートを工夫する必要がある。

以上述べた成果と課題から一年次の研究のまとめと二年次の方向性を次のように考える。

小・小連携教育については、協議する場や時間が位置づけられ、取組の推進を行うためのシステムが定着したことや各学校での取組における「添田町生活のきまり」の徹底が図られるようになってきたことなど、高まりがみられてきた。そこで、二年次は、さらに小・小連携教育の充実を図るために、組織や体制が整うなどの成果が見られた「推進を図るコーディネート」については見直しを行い、「添田町生活のきまり」の取組の継続や連携の内容を広げていくとともに教務主任会の主体的な取組の推進を目指して、「共通理解」「取組の徹底」「取組の意欲化」を図るコーディネートを工夫する。

2 研究主題・副題の意味

(1)主題について

「中学校期を見据えた」とは、町内の小学校全教職員が、中学校期において増加が予想される不登校や問題行動といった課題改善の必要性について認識し、中学校期で目指す生徒像を共通にイメージすることである。

中学校期を見据えた小・小連携教育とは、中学校期に向けた学習や生活の基礎を育む観点から、5つの小学校で、学び方・生活規律・家庭学習等の内容について共通して取り組むことを決め、全小学校が一丸となって行う教育のことである。

中学校期を見据えた小・小連携教育の実現を図るためには、全教職員の協働実践を通した課題解決が必要であり、主体的な実践を行っていくことが大切になる。そのために、次の3つの観点を大切にする必要があると考える。

- 共通理解 ○ 取組の徹底 ○ 取組の意欲化

(2)副題について

全小学校の教職員が一体となって、「中学校期に向けた学習や生活の基礎を育む」目標を達成させるためには、学校全体の教育活動を中心となって推進する教務主任の役割が重要になってくる。「教

務主任会のコーディネート」とは、教務主任が、小・小連携の内容や取組を共通理解し、自校において推進・管理できるよう、教務主任会を調整しまとめることである。二年次の研究では、教務主任会のコーディネートを以下の3点で考える。

○「共通理解を図るコーディネート」

ア 中学校の現状や課題、取組の内容や方法の協議を行い、取組の評価・改善を図るための小・小連携会議の企画・運営を行う。

イ 取組の定期的な評価を行い、その結果を学年・学校間が比較できるよう整理したデータから課題や改善点の共通理解を図る。

ウ 中学校の訪問や連携校で相互訪問を行い子どもの姿から自校の取組を評価し、取組の意識や意欲の継続を図るとともに、改善に向けて協議を行い取組の共有化を図る。

○「取組の徹底を図るコーディネート」

ア 連携校で合同の活動や学習を実施する。

イ 各学校による「添田町生活のきまり」の取組を推進する。

- ・取組の重点化を図る。
- ・定期的に取り組の評価を行うためのアンケートを作成し、結果を教務主任会で提示し、取組の改善を図る。

○「取組の意欲化を図るコーディネート」

ア 小・小連携会議で協議した内容や取組の結果を「そえだ町5小学校れんけいだより」としてまとめ教育委員会・管理職・各教務主任に配布し、協働実践の意識を高め、各教務主任の自校での取組の推進を図るための資料とする。

イ 会議や実践後の教務主任へのアンケートの実施、取組の評価を学校・学年・学級間で比較できるよう整理したデータの提示をすることにより、自校での推進の意欲化を図る。

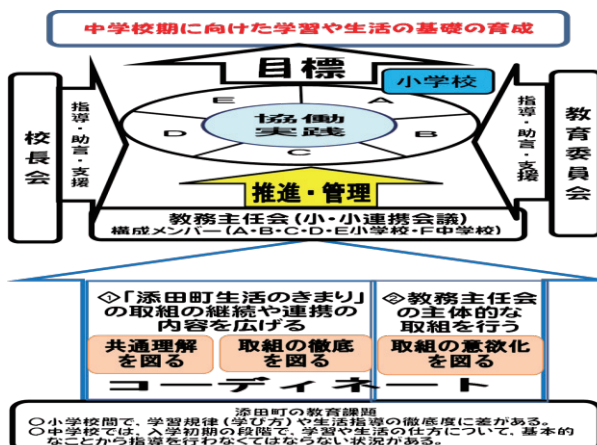


図1 小・小連携教育推進とそのための教務主任会のコーディネートの関係図

【具体的方策】

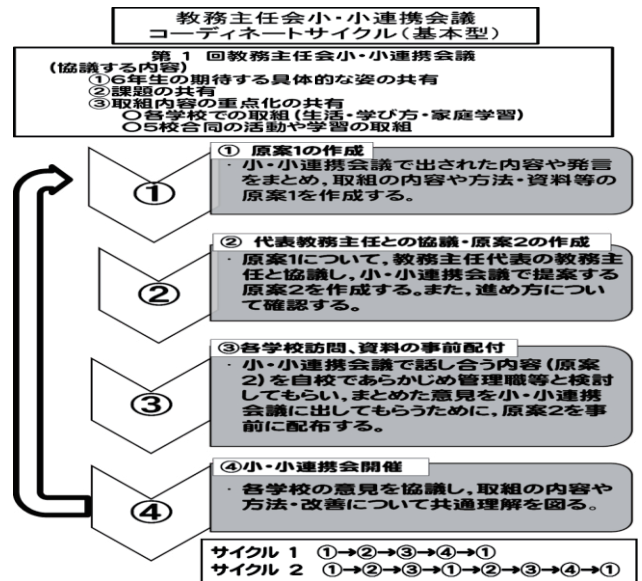


図2 教務主任会小・小連携会議コーディネートサイクル

図1で示すように、教育委員会や校長会への連絡・調整を行い、指導・助言・支援を受けながら、図2で示すサイクルを基本に、教務主任会小・小連携会議を企画する。また、取組の評価や改善を図るための資料やアンケートを定期的に作成し、その結果を観点ごとに整理したものを提示する。主に、◇「添田町生活のきまり」の取組の継続や連携の内容を広げていく場においては、「共通理解」「取組の徹底」を図るコーディネートを中心に取り組み、◇教務主任の主体的な取組においては、「取組の意欲化を図る」コーディネートを中心に取り組む。なお、コーディネートを進める3つの観点については、お互いに関連していることや繰り返し行うことで、小・小連携教育の効果を高めていく。

3 研究の目的

中学校期を見据えた小学校間の連携教育を推進していくためには、教務主任会における小・小連携会議をどのような内容や方法でコーディネートしていけばよいか明らかにする。

4 研究の仮説

教務主任会において、「共通理解を図るコーディネート」「取組の徹底を図るコーディネート」「取組の意欲化を図るコーディネート」を行えば、教務主任会を活性化(課題の共有、協働実践の意欲や意識の向上)することができ、小・小連携教育の効果を高めることができるであろう。

5 研究の実際

二年次の研究の実際

(1)「添田町生活のきまり」の取組の継続や連携の内容を広げていくためのコーディネート

①コーディネートの計画

○共通理解を図るコーディネート

教務主任会小・小連携会議（交流活動）・目的	コーディネートの内容
【第1回教務主任会小・小連携会議 4/24】 〈目的〉昨年度の取組の成果と課題の共通理解を図る	・昨年度の取組から、明らかに なった成果や課題をまとめた プレゼンテーションの実施
【第2回教務主任会小・小連携会議 5/29】 〈目的〉本年度の方向性と取組の具 体的内容の明確化を図る	i) 図3のサイクルに従ってワー クショップを設定(図4) ii) 事前に観点ごとに各学校の実 態や意見を記入(付箋)し、整 理する段階からの設定
【第3回教務主任会小・小連携会議 6/30】 〈目的〉本年度の取組の内容・方法 の決定を図る	・図3のサイクルに従って前回の 会議で出された意見をまとめ、 共通の取組(図8)の内容の提案
【第4回教務主任会小・小連携会議 10/15】 〈目的〉 ①E小学校の子どもの姿からの 取組の振り返りや課題と成果 の明確化を図る ②第6学年の交流活動の実施に 向け、日程・内容を決定し、連 携教育の推進を図る	i) E小学校訪問の参観資料やF 中学校参観(10月2日実施)の まとめの提示 ii) 図3のサイクルに従って、交 流活動の日程・内容について事 前に各学校に配布し、出された 意見の集約と会議の提案内容 の整理 iii) 小・小連携教育の取組につ いてC小学校の校長先生(校長会 代表)と連絡・調整
【第5回教務主任会小・小連携会議 12/10】 〈目的〉12月16日(火)に行われ る6年生交流活動について、具 体的な内容の決定する	i) 図3のサイクルに従って、代 表教務主任が作成した、会議 の内容について、事前に各学 校の教務主任への配布 ii) 「11月生活のきまり」の取組 状況のアンケート結果の提示 iii) 交流活動についてC小学校の 校長先生(校長会代表)への連 絡・調整
【第6学年 5小学校交流活動 12/16】 〈目的〉添田町の全6年生が合同で 交流活動することにより、中学 校で共に学ぶ集団であることを 認識し、よりよい人間関係を築こ うとする意識を高める	・事前アンケート作成・実施 【アンケート対象者:6年生】 ・事後アンケートの事前の提示 (アンケート対象者:管理職・担 任・教務主任・中学校参加者・教 育委員会) ・6年生事後感想のまとめの回覧

○取組の徹底を図るコーディネート

教務主任会小・小連携会議（交流活動）・目的	コーディネートの内容
【第3回教務主任会小・小連携会議 6/30】 〈目的〉自校の取組の見直しや今後の 取組の改善を図る	・「6月生活のきまり」の取組のア ンケートと結果の提示
【第4回教務主任会小・小連携会議 10/15】 〈目的〉取組の成果に対する各校の取 組方法の交流を行い、自校の取 組の見直しや今後の取組の改 善を図る	i) 「9月生活のきまり」の取組の アンケートと結果の提示や各学 校の取組方法を提示 ii) 教務主任の小・小連携教育につ いての意識調査を実施
【第5回教務主任会小・小連携会議 12/10】 〈目的〉6年生の中学校進学における 意識について知り、交流活動の 意義の共通理解を図る	i) 「11月生活のきまり」の取組の アンケートと結果の提示や教務 主任の自校での推進についての アンケートの実施 ii) 添田町の6年生全員に中学校進 学に対する意識調査の実施 iii) 交流活動事後アンケート(6年 生・6年担任・小中教務主任・管 理職・教育委員会)の実施
【第6学年交流活動の実施 12/16】 〈目的〉6年生の中学校進学におけ る不安感の解消	

②教務主任会小・小連携会議の実際

第1回 4/24

「各学校の実態を踏まえた事後の協議を行い、本年度の取組の内容や方法を決定していく必要がある」との発言が出された。この意見を受けて、本年度の取組の内容や方法を決定していくための会議を設定した。

第2回 5/29

表2 会議の内容・方法(一部抜粋)

○ワークショップを行う。【80分】 (1)観点ごとに整理し、分析を行う。 観点 ①6年生で期待する姿 ②昨年度の取組を行った結果、子ども達の成長が感じられたこと ③昨年度の「学び方」の6つの項目についての自校の評価 (◎ ○ △) ・姿勢・チャイム席・準備・挨拶・発言・離席 (2)今年度の取組について、決定する。 ア 生活の決まり イ 学習の決まり ウ 5校で場と時間を共有した取組
--

各教務主任に会議の内容を周知し、観点ごとの意見を持って参加させるようにした。会議の場では、意見交流が活発に行われた。表3に示す意見が、一年次の取組の成果として出された。また、評価基準の確認や「添田町生活のきまり」の項目や内容の見直し、連携の新たな内容についての意見など、本年度の取組の方向性に繋がる発言が多く出された。



写真1 研修会の様子

表3 会議で出された意見(一部抜粋)

昨年度の取組で、子どもの成長が感じられたこと
(会議の中で、出された意見の中から)

学習準備
授業準備・休憩前に学習準備の
定着が図られた (B小)
遊びに行く前に次の準備をする
子どもが増えた (C小)
学習準備をして休み時間を過ご
すことを意識している生徒が増
えた (F中)

宿題を忘れない (E小)
姿勢について意識するようにな
ってきた (B小)
話す人の方をしっかり見て聴く
ことができた (A小)
席を離れる生徒が少なくなっ
てきた (F中)

服装
服装などで大きな規則無視をす
る生徒は少なくなってきた (F中)
服装や学習態度・生活態度に乱れ
がない (E小)

言葉使い
人のいやがることや気になるこ
とを言わない (E小)
言葉使いがよくなった (F中)

チャイム席
高学年の意識が高まったことで低学
年によい影響がある (小C)
今まで以上に時間を意識している
(小C)
チャイム席を意識することにより、運
動会やその練習のときに機敏な行動
ができた (A小)
チャイムが鳴らなくても時計を見て
間に合っていた (D小)

挨拶
授業中の言葉使いに「です」「ま
す」は定着してきた (D小)
始業・終業時のあいさつができる
・大きな声ではっきりと言え
(D小)
あいさつが元気にはっきり言え
(E小)
自分から進んで地域の方、先生
に挨拶する子が増えてきた (A小)

助け合い
広い範囲でも時間いっぱい、一
生懸命掃除をする (E小)
自然と助け合う姿がある (E小)
運動会の練習に取り組む中、励
まし合い成功を褒め合う姿が見
られた (A小)

第3回 6/30

この会議では、「生活のきまり」の取組について、各教務主任が重要と考えている項目を整理し、事前に提案した。会議では、「自校の取組では、始業と同時に号令がかかるについて、徹底できていなかった」や「発表の仕方だけではなく、聞き方についても定着を図っていくことが必要である」といった意見が出された。その結果「生活のきまり」の重点項目として表4の内容が決定した。また、連携校間で交流活動を実施する方向で検討していくことが決定した。



写真2 会議の様子

表4 生活のきまりの重点項目(一部抜粋)

<p>学び方について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 始業と同時に授業が始まっている。 2. 授業が始まる時、学習の準備ができています。 3. 自分から進んで発表をしている。 4. 発言している人の方を向いて聞いている。 <p>生活について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 名前を呼ばれたら「はい」と返事をする。 2. 友達や人を褒めている。

第4回 10/15

この会議では、12/16(火)に行われる添田町5小学校交流活動(第6学年)の日程・開催場所・移動方法・活動内容等について協議を行った。

事前に校長会代表校長先生とコーディネーターが連絡・調整を行い、会議内容の提案を行っていた。各教務主任には、事前に各学校の意見を集約し、参加してもらった。そのことを踏まえ、会議では、「活動の具体的内容については、担当学年で決定したほうが協働実践の意義が深まるのではないか」といった意見が出され、担当学年会議については、代表教務主任が管理職と協議をし、設定することになった。

また、教務主任によるF中学校の授業参観に関する評価結果(図3)を提示し協議した。協議では、発言のルール(聞き手・話し手)を学級または授業者間で統一していくことや授業で充実感や達成感を感じられる授業づくりを進めていくことが必要であるなどの意見が出された。

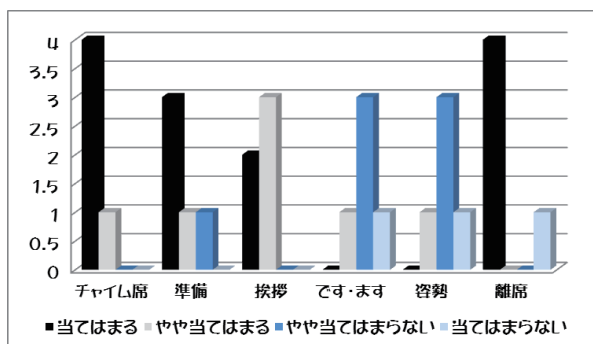


図3 教務主任によるF中学校の授業参観に関する評価結果
評価実施期日：6月13日 評価対象者：中学校1年生

第5回 12/10

この会議の前に、添田町5小学校交流活動に参加する6年生児童を対象に「中学校進学に対する意識調査」を行った。調査は、「中学校に入学してから頑張りたいことや心配なこと」について、自由記述させた。

その結果、「心配」「不安」などの内容を書く児童が多く見られ、友達関係について5小学校のほとんどの子ども達が不安を抱えている状況であることが分かった。その一方で、「心配だけど頑張る・頑張りたい」といった内容を書く児童も見られた。また、添田町5小学校交流活動について、「(この活動を通して)少しでもその不安を解消したい」と、いった内容を書いている児童もみられた。この調査結果を図4のように整理して第5回の会議に臨んだ。

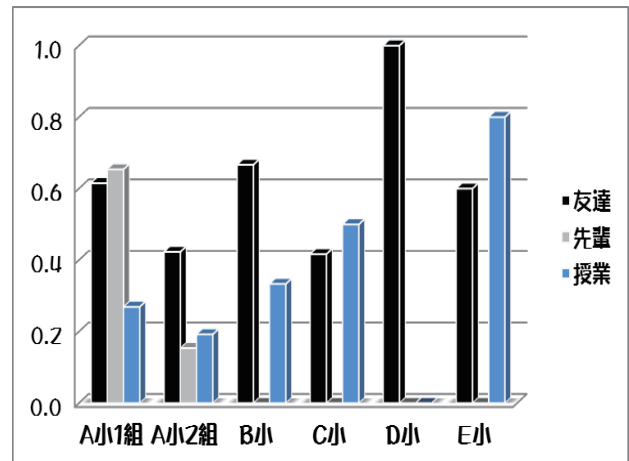


図4 中学校進学に対する児童の不安に対する意識調査
実施日：H26.12.8 対象者：添田町全小学校6年生

この会議では、12/16(火)に行われる添田町5小学校交流活動(第6学年)の具体的活動内容(詳細)と役割分担・タイムスケジュール・移動方法等について協議を行った。

交流内容についての担当者会議での協議を受けて、代表教務主任が教育委員会・代表校長等と連絡調整を行い、提案内容を作成した。その後、提案内容をコーディネーターが各学校へ発信し、各教務主任は、意見をもって会議に参加し、会議には、教育委員会の参加もあり、移動方法や準備・タイムスケジュールについてスムーズに決定することができた。

交流活動の参加児童数は下記の通りである。

表4 交流活動学校別参観児童数

小学校	A	B	C	D	E
児童数(人)	52	9	12	7	5

なお、実際の活動では、最初、緊張していた児童も活動が進むに連れて、声を掛け合ったり笑い合ったりする姿が見られるようになった。特に、「他の学校の友達をグループに入れよう」や「他の学校の友達を探そう」といった声が聞かれるようになり、集団としての意識の高まりが見られた。

交流活動の事後アンケートでは、「活動前は不安だったが、活動は楽しかった。中学校に進学したら友達をもっとつくりたい」という感想が多くみられた。このことから、交流活動を通して、友達関係に対する心配や不安が解消し、進学について期待が膨らんだ児童が多いことがうかがわれた。また、心配や不安を解消した理由として、「活動中の他校の友達からの声かけ」をあげている児童も多くいた。

表5 交流活動児童事後アンケート結果（一部抜粋）

○最初は、「不安で気軽に話せるかな」と思っていたんですが、いろんな遊びを通して、みんなと協力して楽しく過ごせました。最後は「帰りたいかな」と思いました。（C小学校）
 ○交流会の最初の方は、「友達できるかな」とか「楽しくできるかな」という不安と緊張がありました。しかし、遊んでいるうちに、楽しいなと思えました。なぜなら、私に声を掛けてくれる人がいたからです。私は、今日の体験から協力することの大切さや団結することの大切さを学びました。中学校に入ったら友達をたくさんつくりたいと思います。（E小学校）
 ○交流活動をして他の学校の6年生とふれあえたのでよかったです。ただで人数の中でなじめず、知っている人とか遊びなかったけど、中学校に行ったら、別の人や知らない人がいても自分から声を掛けて積極的に友達をつくっていききたいです。（D小学校）

③考察

○「共通理解を図るコーディネート」の考察

表6の実線部分から、ワークショップを行うことで、小・小連携教育の課題や育てたい子どもの姿、6人の教務主任が十分共通理解を図るための貴重な時間となったことが分かる。また、二重線部分から、各学校の取組や実態の協議を積み重ねていったことにより、教務主任の共通理解が深まり、重点化する内容が添田町の実態に即したものになってきていることが分かる。

表6 会議後の教務主任のアンケート結果（一部抜粋）

第2回 会議後

○本年度の取組の方向性が見出せた。5小学校の取組の成果が、中学校に反映できるように9年間を通して、どのような子どもを育てていくのかを考えて重点化した取組にしていけることが確認できた。（B小学校）

○演習については、事前に付箋カードに書き込んでいたので作業がはかどった。生活（学習）のきまりの成果や課題が目に見える形で整理できた。（A小学校）

第3回 会議後

○教師の名前の呼び方ひとつ、各小中学校、先生で違うのが今回分かりました。小さな事でも連携会議で一つ一つ確認するのが大切ですね。（D小学校）

○小・小連携して2年目を迎え生活の決まりをかなり5校が意識できるようになりました。この高まりを中学校にしっかりバトンを渡せたらいいので何か方策を考えていってらいいのではないかと思います。（B小学校）

○「取組の徹底を図るコーディネート」の考察

表7の実線部分から、連携校で合同の交流活動を行うことや各学校による「添田町生活のきまり」の取組の徹底を図るために、重点化した取組の必要性を教務主任が感じていることが分かる。

二重線部分から、アンケートや相互訪問による評価をどのような観点で分析をするかなど、分析の観点について協議をすることで、取組の徹底を図り、連携教育をさらに進めて行く必要性を感じていることが分かる。また、小学校の取組について教務主任が中学校への理解を深めて欲しいという願いから、9年間の連続した指導の重要性を感じていることが分かる。さらに、波線部分から、中1の生徒の学習や生活に変化が見え始めていると感じていることから、取組の効果が実感できていることが分かる。

表7 会議後の教務主任のアンケート結果（一部抜粋）

第2回 会議後

○本年度の取組の方向性が見出せた。5小学校の取組の成果が、中学校に反映できるように9年間を通して、どのような子どもを育てていくのかを考えて重点化した取組にしていけることが確認できた。（B小学校）

○5校で時間と場の共有した取組については、話がまとまらなかったが、ニュースポーツなど混合グループなどで交流するようなことはできるかもしれない。（A小学校）

第3回 会議後

○学習規律や生活について、小学校の取組をもっと中学校の先生方に知ってもらふこと、そして、その取組を（小学校が大切にしていたこと）は、中学入学後、きちんと中学校に引き継いでもらうことが大切であると思います。（C小学校）

○小・小連携して2年目を迎え生活の決まりをかなり5校が意識できるようになりました。この高まりを中学校にしっかりバトンを渡せたらいいので何か方策を考えていってらいいのではないかと思います。（B小学校）

○これまでの行ってきた自己評価アンケートとこれから出される新しいアンケートで関連をどう取っていくのかな、と思っています。そして、それをどう生かしていけばいいのかなと、と思っています。（E小学校）

第4回 会議後

○授業が始まる時間に教師が教卓の前に立っていれば時間通りに授業が始まるし、時間通りに終われるということをあらためて感じました。（E小学校）

以上、「共通理解を図るコーディネート」「取組の徹底を図るコーディネート」の2点の考察から、「添田町生活のきまり」の取組については、取組後の評価のデータの提示やデータをもとにした協議・改善点や改善案を明確にしていってことにより継続的に取り組むことができた。また、年度初めに、連携教育についての方向性を明確にしたことや管理職、教育委員会等の連絡調整を十分行い、見通しを持って提案できたこと・提案内容を事前に発信したことにより、交流活動の実施に繋がるなど連携の内容が広がった。

(2) 教務主任会の主体的な取組を行うためのコーディネート

① コーディネートの計画

○意欲化を図るコーディネート

教務主任会小・小連携会議 (交流活動)	提示資料	発行資料	活用
第1回 教務主任会小・小連携会議 4/24	・取組状況アンケート結果の 提示(学校間・学年間) ・取組後の教務主任のコメント	「れんけいだより」 NO.1 6/9	・各小中学校・管理職・教育委員会へ発行 ・「れんけいだより」を活用した 各教務主任の自校での取組の 推進
第2回 教務主任会小・小連携会議 5/29	・取組状況アンケート結果の 提示(学校間・学年間) ・小学校訪問後のコメント	「れんけいだより」 NO.2 6/19	
第3回 教務主任会小・小連携会議 6/30	・取組状況アンケート結果の 提示(学校間・学年間) ・小学校訪問後のコメント	「れんけいだより」 NO.3 8/1	
第4回 教務主任会小・小連携会議 10/15	・中学校での研修会(小学校の 取組についての内容)の中学校 教師のコメント ・取組状況アンケートの結果の 提示(学校間・学年間) ・中学校視察参加後のコメント ・取組後の教務主任のコメント	「れんけいだより」 NO.4 10/23	
第5回 教 務主任会小・小連携会議 12/10	・自校での推進に関する コメント ・「そえだ町5小学校れんけい だより」についてのコメント ・取組状況アンケートの結果の 提示(学校間・学年間)	「れんけいだより」 NO.5 1/8	
【第5学年 5小学校交流活動 12/16】	・児童の中学校進学に対する 意識調査結果 ・交流活動事後のコメント (児童・担任・教務主任・教師・ 管理職等) ・B小学校訪問後のコメント 小・小連携教育に関する コメント(教務主任・管理職)	「れんけいだより」 NO.6 2/1	
第6回 教務主任会小・小連携会議 2/10			

② 「取組成果のデータ化」「そえだ町5小学校れんけいだよりの発行」の実際

全小学校の協働実践の取組状況アンケート調査の結果や取組・会議後の教務主任の感想・会議内容などを「そえだ町5小学校れんけいだより」に掲載した。この発信は、教務主任の自校での推進の意欲を高めることに繋がった。また、各教務主任は、全職員に会議の内容や他校の取組状況を周知させ、協働実践意欲を高めるために「れんけいだより」を積極的に活用した。

③ 考察

表8の実線部分から、連携会議での話し合いや取組の内容を「れんけいだより」としてまとめ、発信したことは、共通理解を図るために効果的であると感じていることが分かる。また、波線部分から、教務主任が、会議の内容や取組を振り返ることで、今後の実践の意欲化が図れたことが分かる。

表9の二重線部分から、研修会や朝会・終会等全職員が集まる場を生かし、計画的に推進を図ってきたことが分かる。また、表10の実線部分から、自校の推進を図るために、教職員に意欲を持たせるための方法や評価の在り方など、意欲的に推進していこうとする意識が高まっていることが分かる。

以上のことから、会議の内容や取組の結果を、「れんけいだより」として発信したり、会議のアンケートの実施や推進状況の振り返りを定期的に行ったりすることにより、教務主任が自校での取組を主体的に進めていることが分かる。

【教務主任と他の教員の感想①】

表8 「れんけいだより」について

○小・小連携の進み具合が分かった。通信を出すことで、各学校の共通認識が図れるので良い。(D 小学校教員)

○たよりは教務主任会で話し合ったことがよく伝わっている。(B 小学校)

○活動のあしあとが詳しく書かれていてどのような話し合いが行われているかがよく分かった。(A 小学校教員)

○担任が自分たちの学校(学年)の結果を見て、児童の指導に生かすことができた。また、他校の様子にも、関心をもって見ていた。(A 小学校)

○全職員に回覧しました。データで示されているので、学年間や他校との比較ができ取組の不十分な点が明確になってきてよかったです。職員会議の中でもデータをもとに提案させてもらっていました。(D 小学校)

【教務主任の感想②】

表9 「自校でどのような推進を図ってきたか。」について

○授業研等の度に、学び方など、参観の先生方に見て頂いた。定期的にアンケートを実施することにより、担任・児童が少し意識してきたように思える。(A 小学校)

○職員会議(月末)で反省を出し合い、時間の取組の確認をしました。「生活のきまり」は日常的事務なので、つい意識しないと、おろそかになってしまいますが、教師と児童が意識し続ける上で大事な取組だと思います。(B 小学校)

○朝会・終会の時全職員で取組の確認をしました。学習規律面については、各学年で取組をしています。生徒指導面については、全職員で共通理解を図り、気になる子どもは声がけをしています。(C 小学校)

○校内研修で本校の交流をした。アンケートを取る際、担任に声がけをした。(D 小学校)

○全校で集まった時にほめて、意識を高めたり、日常生活の中で、気付いたことを、その場で話したりすることを全職員が共通して行ってきた。(E 小学校)

【教務主任の感想③】

表10 「自校でどのような推進を図ればよかったと思うか。」について

○小中学校の学び方・生活のきまりの改善を意識し取り組んでいけばもっと意欲的にできるように思える。(A 小学校)

○月末だけの確認会になってしまっていたので、どんな取組をしているのか、学級の取組の紹介や積極的な取組の紹介をする会をもっと、もつべきだったと思います。(B 小学校)

○まず、取組の趣旨について、町内の全職員の共通理解を図ることが大切だと考えます。「取り組まされている」ということでは、推進が図れなかった。そのため、この取組を今後もするのならば、趣旨をまとめたものが要。(C 小学校)

○教師にも評価する場や時間を定期的に設定し、児童に課題を持たせて取り組ませるなど改善を計画的に図っていくことが大切であった。(D 小学校)

6 全体考察

7 成果と課題

表 11 教務主任の小・小連携教育に関するアンケート

<p>○学び方・生活についてのアンケート項目を設定し、定期的に自己評価することで、そのことを意識し、授業や1日の生活の中で、自分を律していこうとする雰囲気が出てきたと思います。特に、上学年においては、挨拶や掃除の取り組み方など、担任の働きかけでよくなってきたと思います。(A小学校)</p> <p>○取り組み前に比べて児童が「生活のきまり」や「学習のきまり」を意識するようになった。「学習の準備!」とか「席に着こう!」と子どもたち同士で、声をかけあうようになった。全児童が規律ある生活を送ることができているため、授業や学校行事が充実できている。(B小学校)</p> <p>○それぞれの学年で、発達段階にあった学習規律の取り組みは行っているが、「添田町生活の決まり」の中から重点的に取り組む項目を決めて町内の学校で一斉に取り組んだことで、より、教師も子供たちも意識化を図ることができた。その結果、学習規律面が少しずつよくなってきている。(C小学校)</p> <p>○小規模の学校だから「すべてできている」と思っていたが、アンケートの結果でそれぞれの学校の課題もあるのかなと気づくことができました。共通の視点で取組を行い、交流することにより、中学校でさらに子どもたちが成長してくれればという願いがいっそう強くなりました。町内の教務主任がまず一つになるきっかけができたのではないかと思います。(A小学校)</p> <p>○教務主任会を中心に町内の小・小連携の大切さについて確認し取り組みを進めたことで、教務主任段階での共通理解ができた。(C小学校)</p> <p>○号令については、町内での統一がしっかりとされたと思う。町内を統一することで、中学校での生活の仕方でもかなりいい方向に向くと感じた。(D小学校)</p> <p>○今回の連携を契機に、今後様々な視点からのアプローチを検討・実践できるような場になればと思います。(A小学校)</p> <p>○2年間の取り組みを今後も継続できるように、まとめをしっかりとしておく必要がある。</p> <p>○小・小連携の大切さは理解できているが、日常的に忙しく全職員で共有化して取り組んでいくのは難しい面がある。今後、共通理解をしっかりと図りながら少しずつ進めていく必要がある。(C小学校)</p> <p>○温度差のある取組は、いけない。「きちんとできている」の自負もいけない。(教師集団)(D小学校)</p> <p>○先生方は、連携教育が重要であることは十分に理解しているし、卒業生の姿を見て何らかの取り組みが必要であることも痛感してあります。しかし、現状は目の前にしなければならぬことが次々に出てくるので、年間計画の中にきちんと入れておかなければ、充実した取り組みにならないのではと思います。(E小学校)</p>
--

表 11 の実線部分から分かるように、5 小学校が共通の取組を行った結果、教師や子どもがきまりを守ろうとする意思が高まり、子どもの学習規律面に改善が図られてきた。また、共通の視点で取組を行ってきた結果、教務主任が9年間の学びを一体のものにとらえた教育活動の必要性を強く意識付けることができた。このことにより、教務主任会への会議内容の事前の周知や事前の意見の集約などのコーディネートサイクルによる共通理解を図るコーディネートは有効であったと考える。

また、二重線部分からは、子ども達自身で日常的にきまりを守ろうとする姿や友達同士での声かけをする姿・授業や学校行事に積極的に参加する姿が見られることから、アンケートによる定期的な評価や結果の交流等、取組の徹底を図るためのコーディネートは効果があったと考える。

さらに、波線部分からは、取組の成果をデータとして提示したり「れんけいだより」として発信したりしたことにより教務主任の次年度への取組の意欲が見られることから、意欲化を図るコーディネートについても有効であったと考える。

そして、点線部分からは、今後の方向性として取組の徹底をさらに図っていくための効率的で効果的な評価方法についての工夫や年間指導計画に位置付けた計画的な取組の実施の必要性を感じていることが分かる。

【成果】

教務主任が中学校期を見据えた小・小連携教育を進めていくためには「共通理解」「取組の徹底」「教務主任の意欲化」の3つの観点から取り組んだことは有効であったと考える。その際、有効であったコーディネートの内容については、以下の通りである。

○共通理解を図るコーディネート

- ①教務主任会小・小連携会議が開始されるまでのコーディネートのサイクル化
- ②具体的なデータ、資料の提示

○取組の徹底を図るコーディネート

- ①定期的な評価
- ②評価結果のデータ提示

○教務主任の意欲化を図るためのコーディネート

- ①取組内容や取組結果をまとめた「そえだ町5小学校れんけいだより」の発行
- ②教務主任の会議後のアンケート結果の提示

【課題】

教務主任会については、連携教育の重要性を認識し、推進していこうとする意識が高まってきており、今後は、教員の協働実践の意識や意欲を高めていくためのコーディネートを工夫し、小・小連携教育の効果をさらに高めていく必要がある。

主な引用・参考文献

- 文部科学省 中央教育審議会 2012 小中連携、一貫教育に関する主な意見等の整理
 天野 茂 2004 学校間・学校内外の連携を進める
 ぎょうせい
 西川信廣 2006 習熟度別指導・小中一貫教育の理念と実践 ナカニシヤ出版
 露口健司 2012 学校組織の信頼 大学教育出版
 福岡県教育センター 2014 学校運営の15の方策
 ぎょうせい

謝辞

本研究をまとめるにあたり、研修機会を与えて頂き、研究推進のご支援を頂きました福岡県教育委員会並びに、添田町教育委員会に心から感謝申し上げます。また、在籍校をはじめとして関係の諸先生方には、多大なるご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げ、謝辞とさせていただきます。